

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
動物	動物看護職	8	知識と理解	職能団体・学術団体等の活動に対する協力、社会的貢献	日本動物看護職協会、日本動物看護学会等の活動において、動物看護実務または動物看護学的な立場から協力できるだけの最先端の知識を持ち、包括的、体系的、統合的で新しく複雑な抽象的アイデアを提示できる。
			汎用的な技能	経営マネジメントの技能	動物病院の経営・運営について、中心的な存在として関与できる。
				業界発展に寄与するための技能	動物看護実務または動物看護学分野の概念や課題を分析・評価し、総合的に対応することが可能で、その対応の積み重ねによって新しい知見や理論、解決策、実践方法を生み出すことができる。
			専門実践技能	獣医療動向、社会ニーズを踏まえた院内・組織運営	獣医療動向、動物看護に対する社会的なニーズをとらえた動物病院経営・運営ができる。
				専門実践技能の能力開発	動物看護実務または動物看護学における様々な領域において、実務的または学問的に高度なレベルで実務や研究等の方法を設計／実施／改良することができる。
			対人技能	各研修会等における座長	職能団体や学術団体が実施するシンポジウム等の場面において、座長として包括的・総合的な成果を産み出すことができる。
			分析技能	短期・中長期計画立案・運営	分析技能を発揮して、動物病院の経営・運営や動物看護職の育成、その他の課題を解決・改善するための短期計画や中長期計画を立案し、その運営ができる。
			管理・指導技能	専門領域の実践・指導力の向上	動物看護職要員の実践能力の向上を図ることができ、また、その指導力の向上を図ることができる。
			自律性と責任感	業界の目標達成に向けた主体的行動	獣医療の発展、動物看護職の技能の向上など、獣医療業界の発展や課題解決に向けて主体的に行動できる。
				業界におけるリーダーシップ	獣医療業界において、動物看護職のリーダーとしてのリーダーシップを発揮できる。
			倫理観とプロ意識	関連業界のビジョン確立	獣医療業界およびその関連業界全体の視点から、実現可能で発展的な業界の将来ビジョンを描くことができる。
動物	動物看護職	7	知識と理解	獣医療最新動向	獣医療の最新動向に基づいた知識を持ち、また、その知識の適用領域に関する理解力を持っている。
				感染予防管理	獣医療に携わる獣医師、動物看護職等、および、飼い主を、各種感染症から予防するために必要な知識を持っている。
				防災管理	動物病院等を、地震、豪雨等の天災から守り、その機能を維持するために必要な防災管理の知識を持っている。
				他職能団体・学術団体の活動に対する理解	日本動物看護職協会、日本動物看護学会等の活動に関する知識を持ち、その存在意義について理解している。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			汎用的な技能	獣医療安全管理技能	獣医療における様々な事故とその発生原因、対策等に関する十分な知識を持つとともに、その知識を実際に活かす技能をもっている。
				院内外での研修会における講師や助手をつとめる技能	職能団体や学術団体が実施する研修、あるいは、院内における研修等において、講師またはその助手を務めることができる。
				学会等における研究成果発表（効果的プレゼンテーション）の技能	学会等における研究成果発表等の局面において、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
			専門実践技能	動物看護の実践モデル	動物看護職の各種業務をモデル化できる（一般的なパターンと応用パターンを理解し実践できる）。
				獣医師との連携による動物看護の質向上、専門性向上活動	獣医師と効果的に連携することが可能で、そのことによる動物看護の質の向上や専門性の向上を図ることができる。
			対人技能	対象者およびその家族との信頼関係の構築	動物看護職として、対象者やその家族から全面的に信頼されるために必要な説明や表現ができる。
				院内スタッフのコミュニケーション能力育成の醸成	
				地域関係者、学界関係者との積極的交流	
				組織的な研究活動の推進	
			分析技能	短期・中長期計画の理解	
				院内チームの教育企画運営	
				院外組織の業務改善	
			管理・指導技能	OJTを通じた臨床実習指導	
				学習・研究成果の伝達と活用	
				スタッフの研究能力向上支援	
			自律性と責任感	社会情勢の変化に対する関心	
				所属組織の目標達成に向けた主体的行動	
				院内・チームでのリーダーシップ	
				自己のキャリアアーカーの認識	
			倫理観とプロ意識	院内・チームのビジョン	
倫理的および獣医療安全上の諸問題の対応					
トラブルに関する道徳的、倫理的見解をもった対応					
倫理的完成（後輩の模範）					

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
動物	動物看護職	6	知識と理解	対象動物のQOL	動物種による生態系を考慮した飼育環境整備ができ、動物が不快感を感じることなく生活できるよう配慮する。
				重篤化回避の方法	対応事例ごとの動物看護過程の展開を重要視し看護診断を適切に実施、潜在している問題点を早期に抽出して対応する。もしも看護診断の時点で問題点が発見できないと、次なる問題の発生や重篤化につながる。
				回復支援のリハ看護方法	獣医師の診断に基づき個体の観察をし、問題が機能不全によって生じているとした場合には、機能不全を生じさせている箇所の機能の回復を目標とした理学療法メニューを検討する。リハビリテーション技術は、獣医師による診断と計画に基づき実践され、飼い主の高すぎる目標など無理な結果を設定しないこと。実施、評価を繰り返す。
			汎用的な技能	臨床現場において研究的視点を持つために必要な技能	担当した事例が過去に同じものがあったか、その結果はどうだったか、どんな看護技術を駆使し、結果はどうだったか、広く知らせたほうが良い方法が見つかったか、希少な事例を知らせるか、など動物看護師として実践体験できることから意識を持つ。また、困難や危険な看護事例について工夫して効果があった事例などを集積しておく。「動物看護師の倫理綱領」13条を理解して事例を担当した際、動物看護過程の展開を主体とした記録を残すこと。個体の観察、疑問点リサーチ、先人の研究の有無を調べる、経過に沿った内容の精査、疑問点の抽出と調査、文献整理。
				研究のプロセスを進めるための技能	
				学会等で研究発表を行うための技能	事例の報告は、多数の同事例を比較検討する場合、希少事例を一例報告する場合、新しい看護方法を知らせる場合などを口頭発表する。また、ポスターとして掲示し解説する方法がある。
				職能団体の社会的意義を理解した活動技能	2009年動物看護師の全国団体である一般社団法人日本動物看護職協会が発足した。動物看護職を支援すると共に動物看護職に係る制度や就業環境整備を図ることを目的として活動を実施している。
				院内における諸課題の把握・解決・共有技能	院内獣医療・動物看護の質をより高めていくために、課題点・不足点などを的確に把握し、それを解決するための学びや訓練が必要であることを理解し、チームに理解醸造していくことは動物病院経営にとって、重要である。
				種々の報告書作成技能	動物看護師は看護記録を残し、必要に応じて求められた報告書を作成することがある。また、外部で参加した学会や講演会等で知り得た内容を上司、スタッフに報告する必要な生じることがある。
				社会との連携や職能団体の活動に参加するための技能	
社会人としての基礎力技能					

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			専門実践技能	QOL向上を目指した動物看護	動物への看護とは、最善の生活の質（QOL）が保てるよう、動物種に合った生態系の中で日常生活が不快感なく自律してできるように援助（ケア）すること。言葉と話さない動物が何を求めているのかを観察判断し、個々の状況に見合った、必要とされている技術を提供できる。擬人化した環境を与えることがQOLの向上ではないことを認識できている。「動物看護師の倫理綱領」6条を理解している。
				安全な動物看護	動物への看護はアセスメントによる情報収集と整理により潜在している問題点を抽出し、それを解決する方法を立案することから始まる。安全な看護とは個々の動物の状況を判断し充分修得した技術を駆使することで成り立ち、もしその場で実施されなかった場合には次にどのような危険が生じるのか、を予測できることが必要である。
				動物看護の実践介入・評価	動物が自分でできることへの手助けや介入は動物の自立を助けることにはならない。各自の実践した内容の振り返りをし不適切な結果が見えた時にはアセスメントからやり直す。
				急変時対応	入院、周術期、輸液や輸血など予期せぬ時の急変に備えて器材、薬剤の準備、各自の行動確認ができており、それに見合った行動がとれるよう訓練がされている。
			対人技能	退院支援・退院後支援に関する飼主への指導・助言	獣医師の診断により退院や自宅療養が必要になった時、個々の動物への配慮や必要なケアなどが飼い主の十分な理解と協力の元で実施できるよう伝えることができる。もし動物に不利な状況や福祉に反するような行為が予測できる場合には他の方法が提示できる。
				院内における人間関係の認識	働く環境の中における上司、同僚、後輩へ適切な区別をした対応ができチーム獣医療としてスタッフ間が潤滑に行動できるよう意識している。「動物看護師の倫理綱領」9、13条を理解している。
				多職種との協業・連携や異業種の方とのコミュニケーション	臨床の場では、チーム獣医療として互いの職務内容を理解し協働できる。外の環境では、One Healty One Worldの意識を持って公衆衛生の向上に努めるためコメディカルとの連携を持つ。「動物看護師の倫理綱領」13条、14条を理解している。
			分析技能	アセスメントや看護計画立案の実施と指導	看護を必要としている個々の動物に対して体系的な情報収集を行い、それを整理分類判断することで動物の現状把握ができ、背後にある潜在的な問題点が把握できる。この問題点を解決するための計画案を作ることができる。
			管理・指導技能	後輩や実習生に対する支援	教育システム的一端としての総合実習やインターンで臨床の場に参加する学生や、それを体験して入社した後輩には現状修得している知識や経験を理解した上で支援ができる。
				院内学習計画の立案	継続学習として院内学習の必要性を理解し積極的に取り組む。学習課題を理解し、業務との関係や意義を見出し、より有用な学習となるよう努めている。「動物看護師の倫理綱領」8、11条を理解している。
				院内資源（人・物・予算・情報）の有効活用を目指した調整	院内の通常シフトのスムーズな展開だけでなく、突発的な事態に遭遇時人の配置管理し、常に新しい情報の収集に努め時に応じた采配ができる。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			自律性と責任感	動物看護師間のリーダーシップ	勤務年数が多く、知識だけでなく臨床の場で必要な技術を経験して修得している者がリーダーとなって動物看護師だけでなく他業種スタッフとも連携をもって業務が遂行でき、問題解決の手段も理解している。
				社会人また獣医療人としての自覚	
				組織の一員としての責任感	
				ジョブアンカー	
			倫理観とプロ意識	「動物看護職の倫理綱領」への配慮	倫理綱領とは、動物看護師としての自らの行動を律するためのもので、倫理とは道徳の規範となるものであり綱領はその要点を示す。この存在を知り、理解し、行動判断に迷うことがあった場合には自らの規範とする。
				倫理的完成を高める中で、対象者への共感的理解と対応	倫理的配慮をしながら、動物が何を求めているかを常に考え、飼養者との関わり、援助に努めている。
動物	動物看護職	5	知識と理解	疾患種類、対象動物の性質	動物看護を実践するためには獣医学的知識を持ち、診断された疾患の内容を理解した上で看護実践をする。看護は個々の動物の状況に合わせた対応が必要であり、その状況は飼育環境、飼い主の接し方、種類、多様性のある動物の性質によって変化することを理解する。
				飼い主の権利	動物は飼い主に所有権があるので飼い主の決定を尊重する。しかしその決定が動物にとって不利益となることがわかった場合には介入し、動物を守る立場となることがある。「動物看護者の倫理綱領」6条を理解している。
				獣医師の診断結果と看護における問題点に対する理解	動物看護師としてチーム獣医療の一院となった時、獣医学的知識を持つことによりその診断や治療内容が、その動物にとって適切なものであるか判断ができ、動物を観察することによって問題点を抽出できその解決法を理解し実践することができる。
				院外連携	種々の診療施設の設備や得意とする診療科、対応種などによって連携をとり動物に最適な治療ができるよう情報を持ち、信頼関係を持っていることが求められる。
				臨床における疑問・不確実な知識・技術の追求と研鑽	獣医師による診断や治療内容、予後について疑問がある時には適切な質問ができるよう獣医師や他スタッフとの信頼関係を構築されている。また、疑問を持ったままや、自身の不確実な知識や技術に不安があるときには適切な指導を求める勇気と責任を持つ。決して不確実な知識や技術のまま動物に接してはならないことを自覚する。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			汎用的な技能	成果のとりまとめ技能	実践した動物看護の内容を記録に残すことで後輩へと引き継ぐことができ、公表することによって評価を得、動物看護研究へと発展できる。「動物看護師の倫理綱領」11条を理解している。
				研究の基礎知識を蓄積する技能	日々実践している動物看護の内容を記録し、わからないことは必ず調べて理解し、先人が同じ事例に対応したことがあるのか調べておく。事例の動物の基本情報、検査内容結果、通常治療内容、方法、症状などカルテ上から収集できる客観的情報を記録しておくこと。
				文献活動、研究発表のための技能	動物看護師は、高度化する獣医療に対応できる知識を自ら吸収し、専門職に必要な情報を収集する活動が必要。また、知り得た情報知識、体験した事例などを論文や報告として発信し、研究した看護技術や事例を広く発表す姿勢を持つ。「動物看護師の倫理綱領」8、10、11条を理解している。
		専門実践技能	動物看護に関する基本的な活動の記録	動物看護師は看護記録を残し、必要に応じて報告書を作成する。	
			基準・手順に沿った安全な動物看護	動物看護は、アセスメントをすることで情報収集と整理をして実態を正しくとらえ、問題点を抽出してそれを解決する計画立案をして実践することで手順にそった安全な看護が実践できる。実践したことを振り返り、評価することで更なる安全につながる。	
			安全管理・感染予防・防災対策	特に感染のおそれがある疾患をもった動物に触れたり入院管理する場合には、どの動物および他動物に不利益が生じないよう特別な予防策が必要となり、それに対応できる。また、災害発生時には院内の規則に則り迅速で人命第一の対応がとれるよう訓練ができています。	
		対人技能	インフォームドコンセント	病気や治療について飼い主が説明をもとめ、その求めに応じて獣医師が説明し、その説明に基づき飼い主が治療法の可否や方向性を選択することを理解し、飼い主の決定を尊重するが動物にとって不利益にならないよう監視ができる。	
			自分の考えを他者に伝える技能	臨床の場において、動物看護師は獣医師によって決定された治療方針、予後が動物にとって不利益がなく適切なものであるかを評価し、他者につたえられなければならない。	
			対象者や他人の意見・考えの尊重	飼い主が獣医師からの意見、インフォームドコンセントについて理解できているかを確認し、飼い主側にたって、飼い主の知る権利や決定する権利を尊重する必要がある。「動物看護師の倫理綱領」4条を理解している。	
			報告・連絡・相談の技能	報告とは指示や命令に対して経過や結果を知らせること。目的を明確に伝える。連絡は情報を関係者に共有し統一された協働ができるようにする。相談はアドバイスが欲しい時に、自分の持っている情報を整理して回答を得やすい状態で上司、先輩に対して行う。	
		分析技能	日々の臨床事例の振り返り、課題の明確化	日々の担当した動物看護事例について動物看護過程を展開し、その振り返りと評価をすることで動物に対する最適な実施であったか、そうでない場合には評価をして課題を抽出する。	
			実症例の動物看護過程の展開と活用	授業では体験出来なかった実症例について、個々の動物の看護過程の展開を実施する。	

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			管理・指導技能	組織の理念・方針をよく理解した管理・指導	各自が所属する組織、企業、動物病院などの経営・臨床理念を理解し実行できるよう意識している。
				組織メンバーの役割を理解した行動	教育システムの一部としての総合実習やインターンで臨床の場に参加する実習生には現状修得している知識や経験を理解した上で支援指導できる。また、指導できるよう自身の知識技術の振り返りと確認がでできる良い機会としてとらえられる。
				臨床実習の指導	
				プレゼンテーション応用技能	論文発表やプレゼンを公開することにより、互いに情報を共有し工夫し合うことで技術が向上し、動物看護研究へと発展することに対する理解がある。
			自律性と責任感	ボランティア活動の指導	自身が持っている動物看護力を有事の際に活かせることは大変意義あることである。積極的な参加活動時に、リーダーの指示に従った後輩への伝達や指導的行動ができる。
				実務型動物看護総合実習における自律性と責任感	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。
			倫理観とプロ意識	「動物看護職の倫理綱領」の遵守	動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに著されていることを念頭において行動する。
				個人の尊厳やプライバシーへの配慮	守秘義務の伴う職であることを理解し、業務上知り得た情報を外部に漏らさないこと。特に動物病院では飼い主の個人情報だけでなくカルテ上にある全ての漏洩をしてはならないと共に飼い主や家族、飼育環境などの必要以上の詮索をしないこと。また、飼い主の知る権利や決定権を尊重する。「動物看護者の倫理綱領」4、5条を理解している。
				動物福祉への配慮	動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに著されていることを念頭において行動する。「動物看護者の倫理綱領」前文及び1条を理解している。
				守秘義務への理解	守秘義務の伴う職であることを理解し、業務上知り得た情報を外部に漏らさないこと。特に動物病院では飼い主の個人情報だけでなくカルテ上にある全ての情報を漏洩をしてはならないと共に飼い主や家族、飼育環境などの必要以上の詮索をしないこと。また、飼い主の知る権利や決定権を尊重する。
				動物看護倫理	動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに著されていることを念頭において行動する。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
動物	動物看護職	4	知識と理解	動物形態機能学	動物の体を細胞、組織、臓器の各階層で理解し解剖学、生理学、生化学の面から動物の生命維持の仕組みを理解する。
				動物医療関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。
				公衆衛生	人と動物が共生する環境、食の安全と衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康維持・増進や疾病予防について理解する。
				動物病理	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
				動物臨床検査	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を理解する。
				動物臨床栄養	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶと共にライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や食事方法を理解する。
				伴侶動物	伴侶動物とは終生飼養される動物。伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について理解する。
				動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について理解し、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。
				動物感染症	感染症の原因となる微生物や寄生虫について理解し病気の伝播様式や発病のメカニズムについて知る。衛生的管理、予防・治療法、免疫学の基礎など感染症対策の基礎を理解する。
				動物薬理	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について理解し、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられているかを理解する。
				動物飼育（動物内科看護）	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を理解し、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。
				動物外科	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を理解する。
				動物繁殖	繁殖とは動物が生まれてふえることであり、雄と雌の繁殖に関わる器官の違いや性周期、交配方法、遺伝様式について理解する。
				動物福祉	国の文化や宗教、国民性の違いによる相違を理解しながら動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。
				動物行動	犬や猫の種としての行動様式の特徴を理解し、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。
人間動物関係	動物が人間社会で果たしている役割や背景・歴史について理解し、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。				
産業動物・実験動物・野生動物	人の食の安全に係る産業動物や医学等の研究に役立つため育てる実験動物、動物園・水族館で飼育されている野生動物たちが健康で福祉に則った管理方法で飼養される方法を理解する。受診依頼があった時には各動物に精通している獣医師に依頼できる。				

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				ターミナルケア	終末医療とや緩和ケアと訳されることもある。病を持つ動物の延命を願うだけではなく、飼い主の快適さと尊厳を守ることによって適切な疼痛管理と対症療法、精神的支援、社会的支援を行うということを理解できる。
				安楽死	高度医療による延命や動物と飼い主にとって過酷な現状、改善の見込みがない場合などは安楽死も治療の一端であることを充分理解し、飼い主からの質問に答えたり説明できる。またその行為が動物の福祉に反することなく、決定した飼い主の落ち度ではないことを理解したり伝えることができる。
			汎用的な技能	ITという言葉の認知	ITとは「情報技術」のことで、コンピューターやデータ通信に関する技術の総称。コンピューターやインターネットを中心とするネットワークを活用し、業務や生活に役立てるための技術を指すことを知っている。また、PC操作や電子カルテ記入などを理解し、活用できる。
				会計学の基礎技能	動物病院の窓口業務として治療費の会計や集計をする時に必要な会計の基礎を知っている。また、キャッシュレスやカード支払いの対応を理解している。
				基本的な情報収集・分析技能	インターネットによる情報収集だけでなく新聞、業会関連誌、学会誌などを読む、関連学会に参加することで広く新しい情報を収集する方法を知っている。氾濫する情報量の中から正確で安全な情報の収集ができる方法を理解している。
				基本的な情報発信技能	動物病院のホームページ作成やInstagramなど情報提供やコミュニケーションをとる方法を理解している。
				語学力（英語、中国語など）	飼い主の国籍が多様化しているため他国語での受付や電話対応が可能な程度の語学力がある。
			専門実践技能	動物形態機能学実習技能	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて理解する
				顕微鏡操作	検体を観察するために必要な適切な顕微鏡操作ができる。
				動物臨床検査実習技能	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、臨床検査に必要な知識の実践ができる。
				動物内科看護実習技能	口腔管理やグルーミング、保定やバイタルチェック、基本的トレーニング法、飼育環境整備など犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技などの実践ができる。
				動物外科看護実習技能	手術準備（動物・手術器具）、術中管理、術後看護、麻酔準備や麻酔監視、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践ができる。
				動物の臨床看護に必要な基本的知識に基づいた技能	教育の場で修得してきた臨床看護に必要な知識を活用し、個別性を重んじ健康維持に必要な技術を修得する。動物看護技術の特殊性は対象が命ある動物であることを理解し実践する。
				機能障害を持つ動物に対する看護技能、評価・介入方法の技能	機能障害をもつ動物が出来るだけ不快感がなく元に近い動きができるようになるために必要なリハビリテーションの知識を理解し、適切な評価と診断の元で介入できることを理解する。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				術前・後管理技能	動物看護師は周術期全般に関わる業務があり、どのような役割があるかを熟知し行動ができる。獣医師は診断と術者、予後判定が担当業務であることを理解する。
				グルーミング技能	健康な動物を美しくトリミングできるトリマーの担当するグルーミングではなく、機能障害のある動物に負担が無く衛生で清潔にするためのグルーミング技術を持っている。
				トレーニング技能	犬の基本的な服従訓練法（アイコンタクト、までなど）を理解し、飼い主に伝えられることにより、犬とのより深い信頼関係を築くことができるようになる。犬（動物）が少しでも不安なく診療を受けられることへの支援ができる。
				バイタルチェック	バイタルサインとは生命徴候を意味し、体温、心拍、呼吸などを適切に測定することにより毎日の健康状態を把握できる。また、通常と異なる時には疾病の早期発見につながるので各個体の健康状態を観察し正確に報告できることが大切である。
			対人技能	グリーフケア技能	グリーフは悲嘆を意味する。かけがえのない大切な存在を喪失した時だけではなくその前に予期した段階から起こる様々な反応の変化をさし、この状態にある飼い主に寄り添うことができる。
				社会人としての基礎的なコミュニケーション技能	動物病院総合実習や研修先では学生としてではなく社会人としてマナーや礼儀作法を認識し、実践することを認識している。
				接遇とホスピタリティの技能	接遇：相手をいたわる心を持ってサービスを提供するためのスキル。 ホスピタリティ：相手が快適と感じられるような対応や環境づくり。相手が喜びを感じていることが主人に伝わるのが大切。
				クライアントエジュケーション	動物看護師は獣医師が飼い主に説明する病気や治療について適切な知識を持ち、飼い主との対面において情報を提供することができるようにする。飼い主は適切に対応できる動物看護師に信頼を寄せ、安心して動物のケアにあたることができる。
				院内基本コミュニケーション	来院する飼い主や業者、院内のスタッフ全ての人と適切なコミュニケーションをとることができる。良好なコミュニケーションをとるための方法を知っている。
			分析技能	QOLの理解に基づく分析技能	QOL: quality of life、生活の質。動物と飼い主を対象とした生活の質の向上を求め、その初歩的実践ができる。
				観察技能	動物看護技術として一番重要なことは観察。動物に対して動物看護過程の展開をするために必要な初動。これに基づいて看護診断、看護計画、実施へと展開される。
				情報の記録技能	動物看護記録：看護で実践した内容を明らかにする。適正な実践であったことを証明するものでもある。
				動物看護過程の展開技能	言葉を持たない動物たちを尊重し看護する動物看護師が動物を観察し、必要とされていることが何かを見極める対応手段・方法論が動物看護過程であることを理解し実践する。
				動物看護記録技能	看護で実践した内容を明らかにし、次に伝える技法。適正な実践であったことを証明するものであり、結果が不適切であった時には振り返りの判断材料となる。チーム獣医療として協働者の理解と飼い主への伝達に必要な記録方法。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			管理・指導技能	プレゼンテーションの初歩的技能	動物看護総合実習などで体験した事例について検討した内容やわかったことをクラス内や学会の学生向けセッションなどで発表する。
				研究発表の基本的技能	動物看護師の倫理綱領第11条「動物看護師は、看護実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、動物看護学の構築と発展に寄与する」の基本的理解と実践ができる。
			自律性と責任感	体験型動物看護総合実習における自律性と責任感	理解型：動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、スタッフ構成等）を理解する。体験型：理解した上で、自身がどのように加わるかを考える。
				ボランティア活動体験	良い社会づくりのために社会的認識を深め地域の人々と関わりを持つよう努め、地域の行事への参加、保護犬猫に関する活動、使役犬のケアなど自律的に参加し安全に遂行する。
				社会人としての義務の認識	「社会人」とは、社会との関わりの中で一定の責任を持って行動したり、生活したりしている人。社会人は自分で判断して行動し、その結果を自分で決着できることが責任。そのために慎重な行動と他者との関係性が重要。
				成人としての義務の認識	法的な成人とは、単独で法律行為が行えるようになる年齢のこと。義務を果たすことが権利を得ることにつながり、社会保険等の被保険者になる、納税する、投票するなど法的義務の他に勤労の義務など。
				情報収集方法に関する基本的認識	インターネットによる情報収集だけでなく新聞、業会関連誌、学会誌などを読む、関連学会に参加することで広く新しい情報を収集する方法を知っている。
				他者との交話方法に関する基本的認識	電話の適切な受け方かけた、メール、SNSなどを安全に活用する方法、TPOに合った手紙の書き方などを知っている。
				チーム獣医療に対する認識	動物看護師の倫理綱領7条「動物看護師は、自己の意志を持ち、自己の責任と能力を的確に認識しみずからの看護に責任を持つ」。第9条「動物看護師は、他の動物看護師及び動物医療関係者と共同して、良質な動物看護を提供する」の基本を理解する。
			倫理観とプロ意識	「動物看護職の倫理綱領」に対する認識	倫理綱領とは、動物看護師としての自らの行動を律するためのもので、倫理とは道徳の規範となるものであり綱領はその要点を示す。この存在を知り、理解し、行動判断に迷うことがあった場合には自らの規範とする。動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに著されていることを念頭において行動する。
				アニマルウェルフェアに対する認識	動物福祉とはアニマルウェルフェアを翻訳したもので、動物の幸福に配慮した良い生活を示すことを理解し、庇護を意味する愛護との違いを理解している。
				獣医療倫理に対する認識	獣医師は獣医師法に基づく行動を基本とし獣医療倫理を規範とするが、チーム獣医療の両輪となる動物看護師もこれを理解している。
				「地球は一つ・ワンヘルスに関わる福岡宣言」に対する認識	第2回世界獣医師会－世界医師会"OneHealth"に関する国際会議において締結された宣言。医師と獣医師はOneHealthの概念を理解し、健康で安全な社会の構築に協働することなどを誓ったことを知っている。